Manuscript Preparation Guidelines for Journal of Higher Education and Lifelong Learning: In the Form of a Template

Hanako Koto1) \* and Taro Kyoiku2)

1) Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University

2) Faculty of Education, ABC University

『高等教育ジャーナル―高等教育と生涯学習―』執筆要領  
―原稿作成用テンプレートを兼ねて―

高等　花子1) \*\*，教育　太郎2)

1) 北海道大学高等教育推進機構

2) ABC大学教育学部

\* Correspondence: Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University, Sapporo 060-0817, Japan  
E-mail: xxxxxxx@high.hokudai.ac.jp

\*\* 連絡先：060-0817　札幌市北区北17条西8丁目　北海道大学高等教育推進機構

Abstract – This document describes manuscript preparation guidelines for the Journal of Higher Education and Lifelong Learning, published by the Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University, and it provides a template for writing at the same time. This Word file enables contributors to create a manuscript that is formatted to be ready for submission. The editorial board of the journal asks all contributors to precisely follow these guidelines and template when they prepare their manuscripts. The template has a page setup of 23 characters × 42 lines × 2 columns per page according to the normal layout of the journal. Only the title part of the front page, where we are now, is not divided into two columns. Contributors are advised not to modify the page setup when they prepare manuscripts. For description and writing styles other than those described in this manual, please refer to the back issues of the journal.

（Accepted on \*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*）

【原稿受理日は編集委員会で記入します】

# 1.　はじめに

　このWordファイルは，北海道大学高等教育推進機構が発行する『高等教育ジャーナル―高等教育と生涯学習―』の執筆要領であり，原稿作成のためのテンプレートも兼ねています。このテンプレートを使用すると，そのまま投稿可能な原稿を作成できます。投稿原稿は，この執筆要領およびテンプレートに従って作成してください。

# 2.　ページ設定について

　このファイルは，本誌の通常のレイアウトに合わせて，1ページあたり23字×42行×2段のページ設定としています。タイトルなどが入る1ページ目の表題部分は，Wordの書式設定上，別セクションとし，段組みのないページ設定としてあります。

# 3.　使用言語と分量



図1　図の例

　投稿原稿は，日本語または英語のいずれかで記述してください。英語で投稿する場合，タイトル，本文，Abstract等についてネイティブチェックを受け，校正証明書も原稿といっしょに提出してください。

　投稿原稿は，全体（タイトルやAbstract，図表を含む）で，論文は原則8ページ以内とし，10ページまでは投稿を認めます。資料・報告は10ページ以内とします。なお，編集委員会での審議の結果，上記ページ数を超えて掲載されることもあります。

# 4.　表記

　原稿中，句点はマル「。」，読点はカンマ「，」で統一します。フォントは，本文中の見出し以外は基本的に標準サイズ（10.5ポイント）の明朝体を使用します。アルファベットや数字には，半角文字や欧文フォント1を使用してください。

# 5.　表題部分

## 5.1　タイトル，著者名など

　原稿1ページ目の表題部分には，タイトルと著者の氏名，所属，連絡先を英文および和文で記載します2。副題がある場合は，日本語はダッシュ（―）で囲み，英語は半角コロン（:）でつないでください。

## 5.2　英文概要（Abstract）

　原稿には，150〜200語程度の英文概要を付けます。表題部分の最終部（本文の直前）に入れてください。日本語投稿者は，ネイティブチェックをご自身で受け，校正証明書も原稿といっしょに提出してください。

# 6.　章や節などの見出し

　本文中の見出しは，ゴシック体を用いて，章見出し「1.，2.，3，……」，節見出し「1.1，1.2，1.3，……」，項見出し「1.1.1，1.1.2，1.1.3，……」のように付けます。サイズは標準（10.5ポイント）のままで構いません。各見出しの前後は1行ずつ空けてください。

# 7.　図・表・写真

## 7.1　番号と挿入

　図・表・写真がある場合，図1，図2，……，表1，表2，……，写真1，写真2，……のように番号を振り，それぞれにタイトルを付けます。図・表・写真の番号とタイトルは，ゴシック体で記載してください。

　図・表・写真は，本文の途中ではなく，ページの四隅に配置してください。図・表・写真について，本文中で言及してください（図1）。

## 7.2　原稿の作成

　図の原稿はJPEG，PNGなど標準的な画像ファイルで作成してください。表はWordの表作成の機能で本文中に直接作成してください。

なお，採録決定後に，図・表・写真の元ファイルをご提出いただきます。

# 8.　注

　本文を補足するためなどに必要であるものの，本文中で記述するのになじまない事柄のみ，注に記載してください。注は，本文中の該当箇所に上付き文字で「1，2，3，……」のように番号を振り，本文末に掲載します3。

　文献は次に記載する形式で示すこととし，文献の書誌情報を記すためだけに注を用いないでください。

# 9.　文献

## 9.1　引用・言及の方法

　引用の表記，文献リストの作り方は，日本心理学会「『心理学研究』の投稿原稿の作り方」（https://psych.or.jp/manual/manual05#3\_9）に準じます。

　文献を引用する場合は，引用・言及箇所の前後に表1のように表記します。

　複数の文献に同時に言及する際には，セミコロンで区切ります（小笠原，2016；山田，1996；Hofer *et al*.，1998）。同じ年に出版された同一著者の文献を複数参照するときには，刊行年の後に「a，b，c，……」をつけて区別します。

## 9.2　文献リスト

　原稿の末尾に，文献リストを掲げます。

文献リストには，本文中で引用したすべての文献の著者名，出版年，タイトル，掲載雑誌名，出版社名等の書誌情報を記載します。ウェブサイトを参照する場合，URLのハイパーリンクは削除してください。なお，参照しただけで本文中に言及していない文献は，リストには記載しないでください。

表1　表の例

|  |  |
| --- | --- |
| 著者数 | 記載例 |
| 1人 | Dewey（1915）では…。  内村（2011）によると…。  …と指摘している（内村，2011）。 |
| 2人 | O'Flaherty & Phillips（2015）では…。  江本・加藤（2022）によると…。  …と指摘している（O'Flaherty & Phillips，2015）。  …と指摘している（江本・加藤，2022）。 |
| 3人以上 | Ozaki *et al*.（2018）では…。（*et al*. はイタリック体にし，ピリオドを付ける）  尾崎他（2018）によると…。  …と指摘している（Ozaki *et al*.，2018）。  …と指摘している（尾崎他，2018）。 |

引用文献は，日本語文献と外国語文献を分けずに，第1著者の姓のアルファベット順に並べてください。

　文献リストの形式の詳細は，日本心理学会「『心理学研究』の投稿原稿の作り方」（https://psych.or.jp/manual/manual05#3\_9）を参照してください。

# 10.　原稿の提出

## 10.1　原稿

　原稿は，このテンプレートを用いてWordで作成し，PDF形式にして投稿してください。ブラインドによる査読を行いますので，著者名と所属名を必ず削除してください。

## 10.2　原稿提出先・問い合わせ先

　令和4年度より，本ジャーナルへの投稿はオンライン投稿となりました。下記システムからの論文の投稿をお願いします。

本ジャーナルに令和4年度（2022年度）以降に投稿したことがある方は，マイページから投稿してください。初めて投稿する方は，最初に「新規ユーザ登録」からユーザ登録をしてください（表2）。

付記

表2　投稿システムURLと連絡先

|  |
| --- |
| ＊新規ユーザ登録  https://science-cloud.click/highedu/registration.php  ＊マイページ  https://science-cloud.click/highedu/mypage/  〒060-0817 北海道札幌市北区北17条西8丁目  北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部内  　高等教育ジャーナル編集委員会  電話 011-706-7520　FAX 011-706-7521  Eメール j-editor@high.hokudai.ac.jp |

　謝辞や研究助成に関する情報を入れる場合は，本文の直後，注の直前に，「謝辞」や「付記」などの見出しを置いて記載します。

　本テンプレートは，2024年5月に改訂しました。

注

1　本テンプレートでは，Times New Romanを使用しています。

2　本テンプレート中の著者名や所属は，架空のものです。

3　注は，このように番号順に並べます。

文献

Dewey, J. (1915). *The School and Society, revised edition*. University of Chicago Press.（宮原 誠一（訳）（2005）．学校と社会　岩波書店）

江本 理恵・加藤 浩（2022）．学修支援システム「In Assistant（アイアシスタント）」を用いて教員が教学マネジメントを実践するプロセスの分析　日本教育工学会論文誌，*46*(1)，1-14．

Hofer, B. K., Yu, S. L., & Pintrich, P. R. (1998). Teaching college students to be self-regulated learners. In D. H. Schunk, & B. J. Zimmerman (Eds.), *Self-Regulated Learning: From Teaching to Self-Reflective Practice*. (pp.57-85). The Guilford Press.

日本心理学会（2022）．執筆・投稿の手びき 2022年版　日本心理学会　Retrieved May 13, 2024 from https://psych.or.jp/manual/

O'Flaherty, J & Phillips, C. (2015). The use of flipped classrooms in higher education: A scoping review. *Internet and Higher Education*, *25*, 85-95.

小笠原 正明（2016）．北大方式の成立　小笠原 正明・安藤 厚・細川 敏幸（編著）北大教養教育のすべて―エクセレンスの共有を目指して―　（pp.4-32），東信堂

尾崎 幸謙・川端 一光・山田 剛史（編著）（2018）．Rで学ぶマルチレベルモデル入門編―基本モデルの考え方と分析―　朝倉書店

内村 鑑三（2011）．後世への最大遺物　デンマルク国の話　岩波書店

山田 定市（1996）．生涯学習計画化研究の基本的枠組み　高等教育ジャーナル―高等教育と生涯学習―，(1)，209-231．